

平成19年10月

平成19年	7月	～	9月期	実績
平成19年	10月	～	12月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

目 次





































業況天気図	2
全産業の推移	3
製造業の推移	5
建設業の推移	9
小売業の推移	13
サービス業の推移	17
全産業の過去データの推移 * 平成14年1月以降	21
[集計資料]	






D・Iとは

D・Iとは、デフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、D・Iは $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

業 況 天 気 図

	平成17年 10～12月	平成18年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	平成19年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
製 造 業	 曇	 曇	 曇	 薄曇	 曇	 薄曇	 薄曇	 曇	 雨
建 設 業	 雨	 雨	 雨	 曇	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨
小 売 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨
サ ー ビ ス 業	 雨	 曇	 曇	 雨	 雨	 曇	 雨	 雨	 雨

D I 値	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

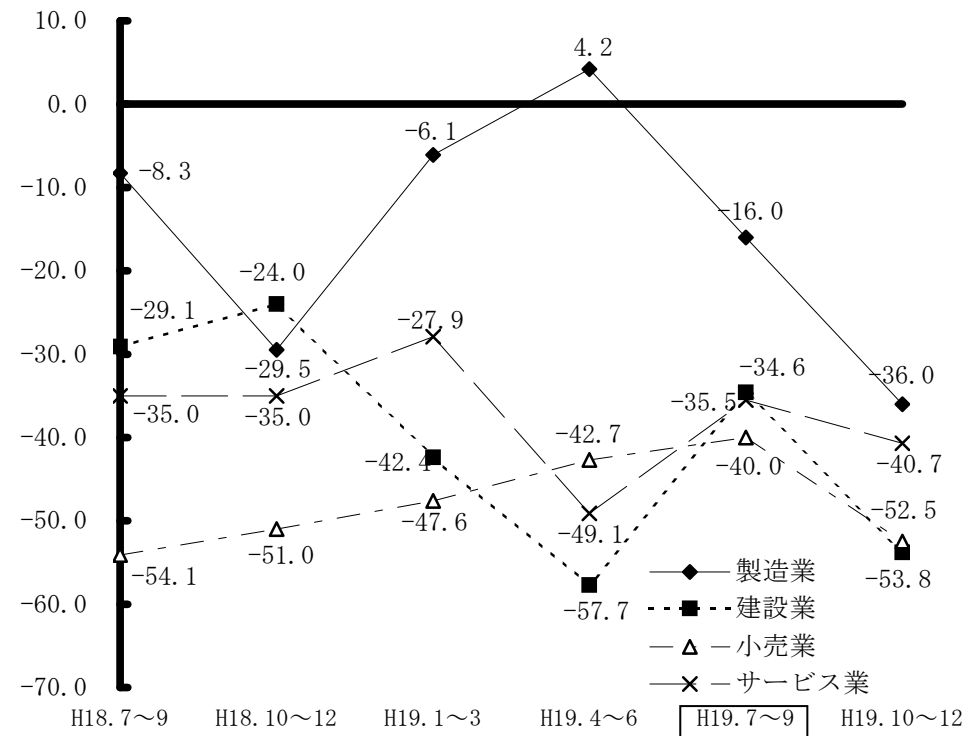
全産業の推移

— 前年同期比 —

売上高

今期の産業別売上高D・Iは、全業種の中で製造業以外は改善した。特に製造業が20.2ポイントと大幅な低下となった。建設業は、上昇、下降を繰り返しており、不安定な状況が続いている。

来期予想では、全業種で低下する見通しで、厳しい状況になると見る向きが強い。



(見通し)

※建設業の売上高は完成工事額

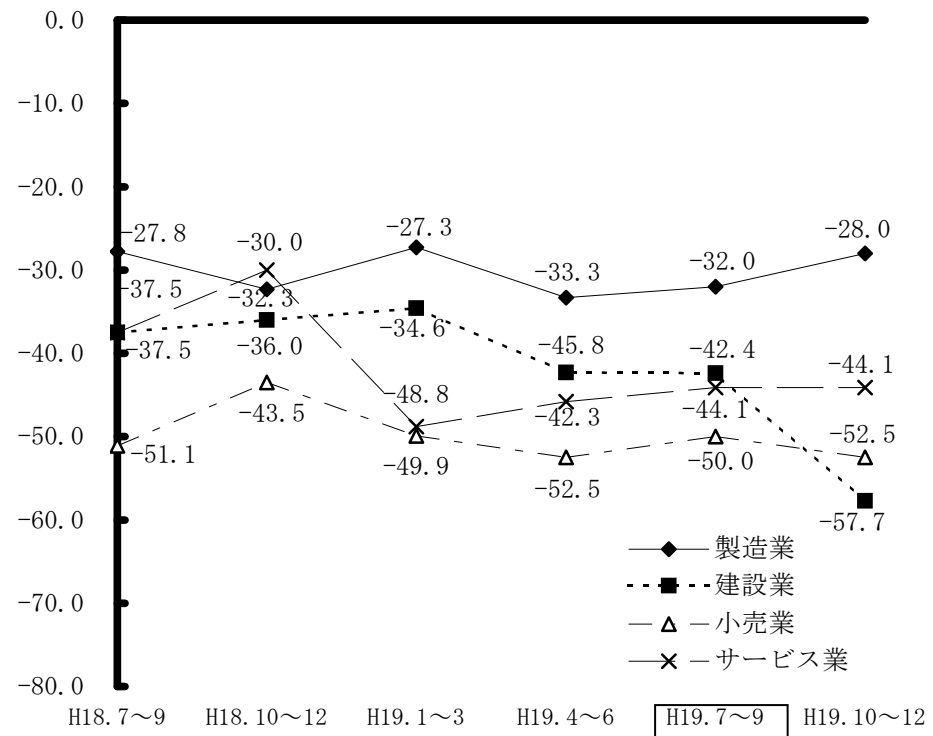
全産業の推移

— 前年同期比 —

採算

今期の産業別の採算D・Iは、低いながらサービス業以外の業種で改善した。

来期の見通しは、製造業が4.0ポイント上向き、サービス業が今期と同様と推移されているが、建設・小売業は下向きと見る向きが強い。特に建設業は、15.3ポイントと大幅な悪化となる見通しで、依然厳しい傾向を示し、不安定な状況にある。業界の厳しい状況が窺える。



(見通し)

※採算は各業種とも経常利益

製造業の推移

— 前年同期比 —

売上高

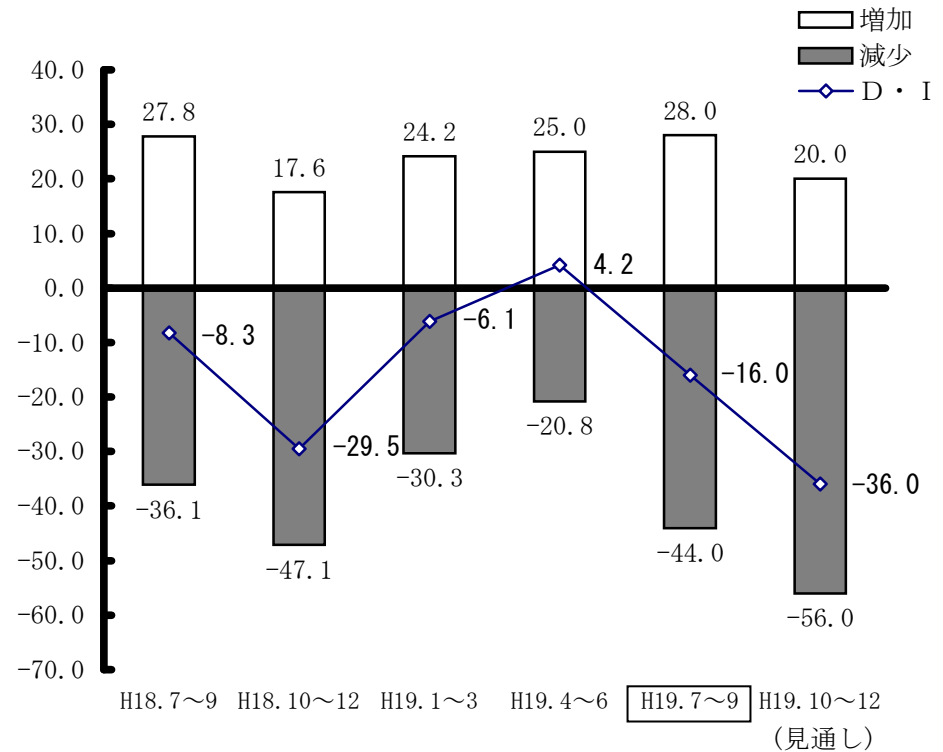
<今 期>



<来期見通し>



製造業の売上高D・Iは、前期から20.2ポイント下降した。
また、来期の見通しは、今期同様の大幅な下降となる見通しで、厳しい状況が続くと見る向きが強い。



製造業の推移

— 前年同期比 —

採算

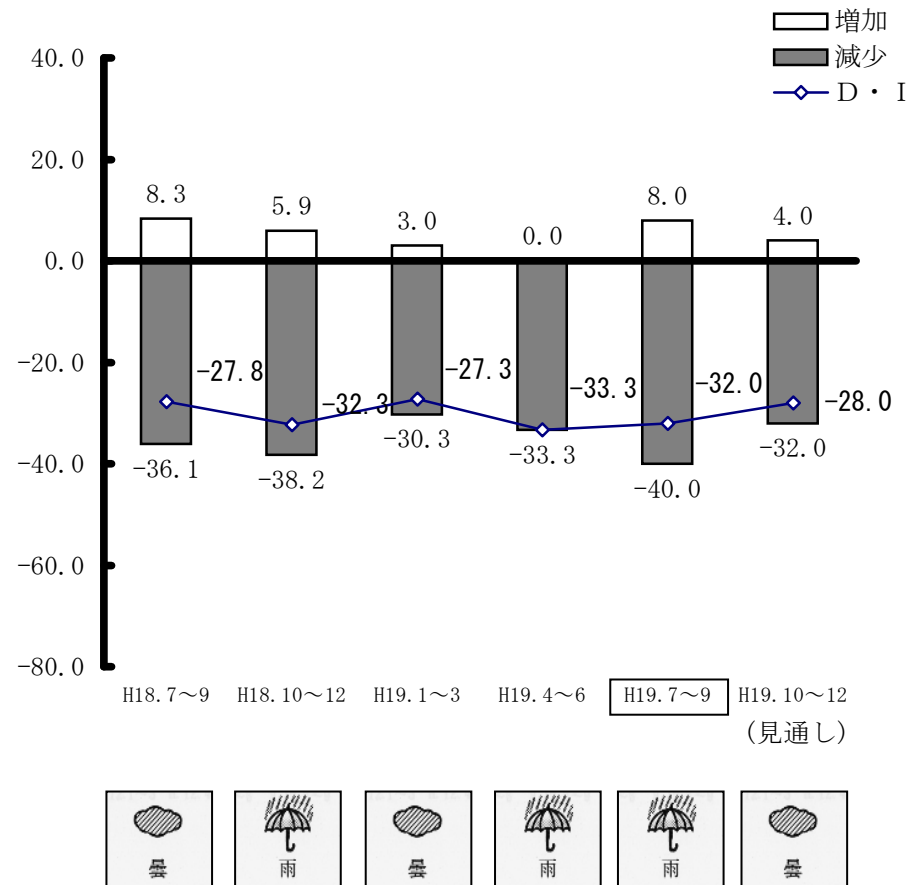
<今 期>



<来期見通し>



製造業の採算D・Iは、前期から1.3ポイント改善した。
また、来期の見通しとして4.0ポイント上昇と見込んでいる。

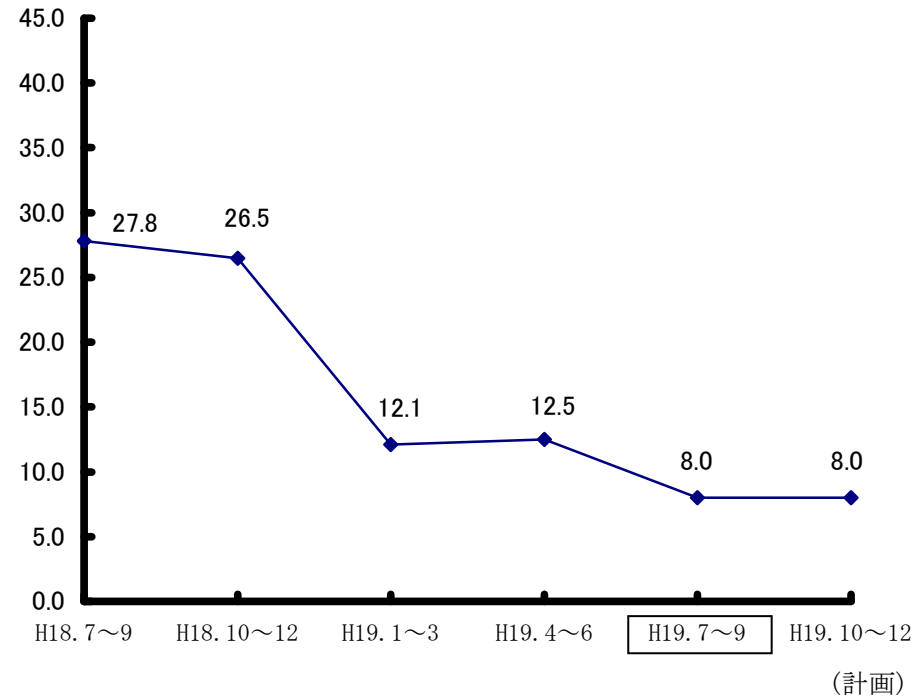


— 前年同期比 —

設備投資

製造業における今期の設備投資は、前期から4.5ポイント下降した。

来期の設備投資計画は、今期並みの水準で推移すると見込んでいる。



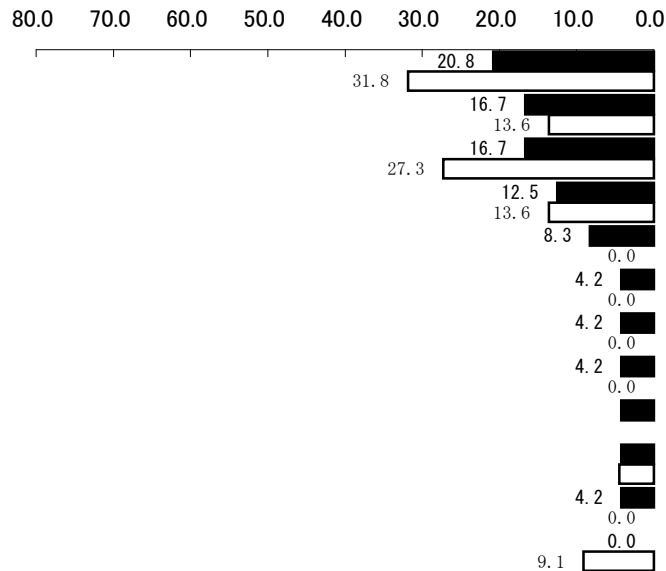
製造業の推移

経営上の問題点

岩手県 製造業

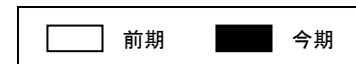
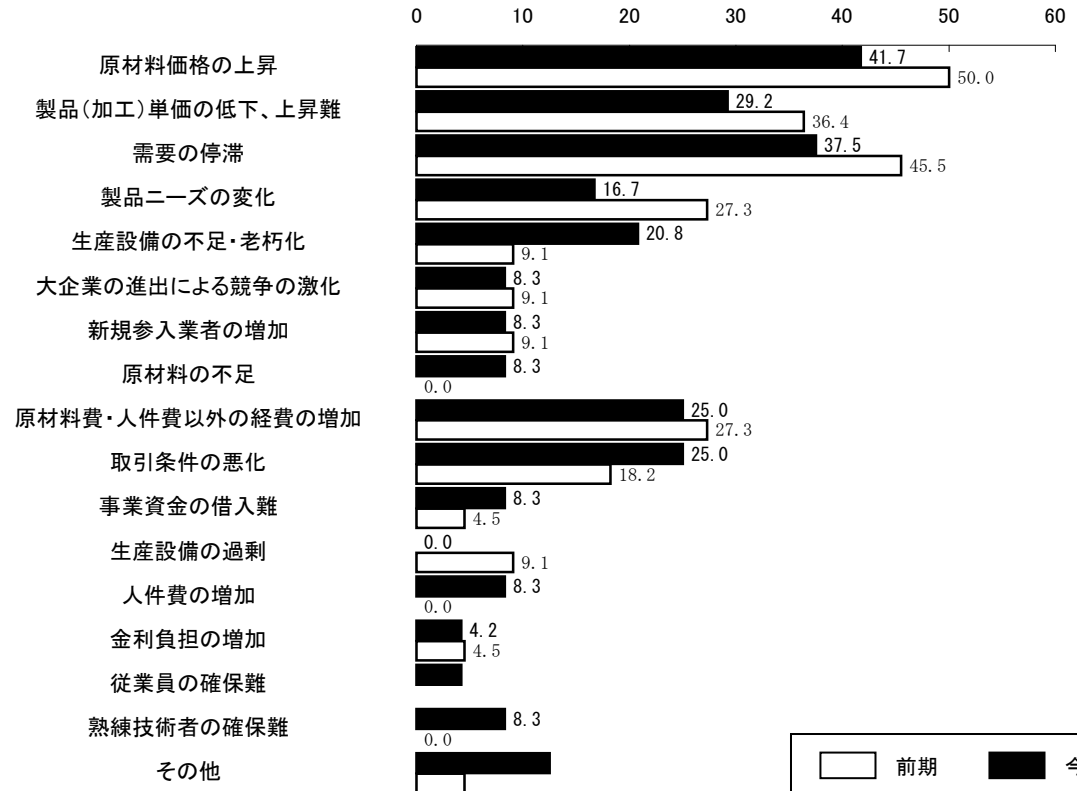
経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

1位の問題点



1位~3位の問題点

(目盛:%)



建設業の推移

— 前年同期比 —

売上高

<今 期>

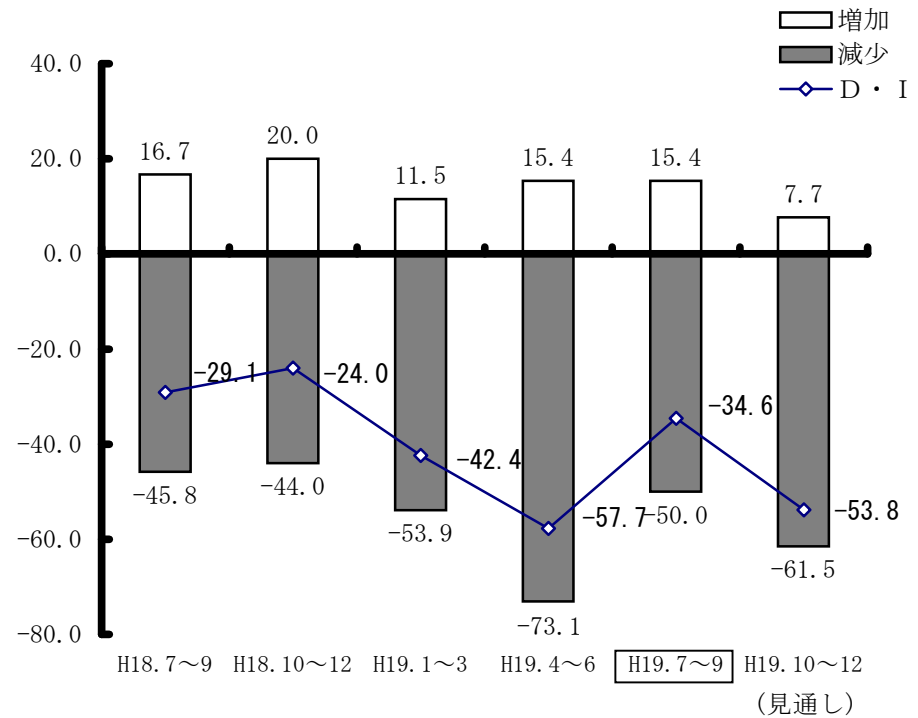


<来期見通し>



建設業の売上高D・Iは、低水準ながらも23.1ポイントの大幅な改善が見られた。

また、来期の見通しは、19.2ポイント下降する見通しで、前期並みになるなど、厳しい状況にある。



※建設業の売上高は完成工事額



建設業の推移

— 前年同期比 —

採算

<今 期>

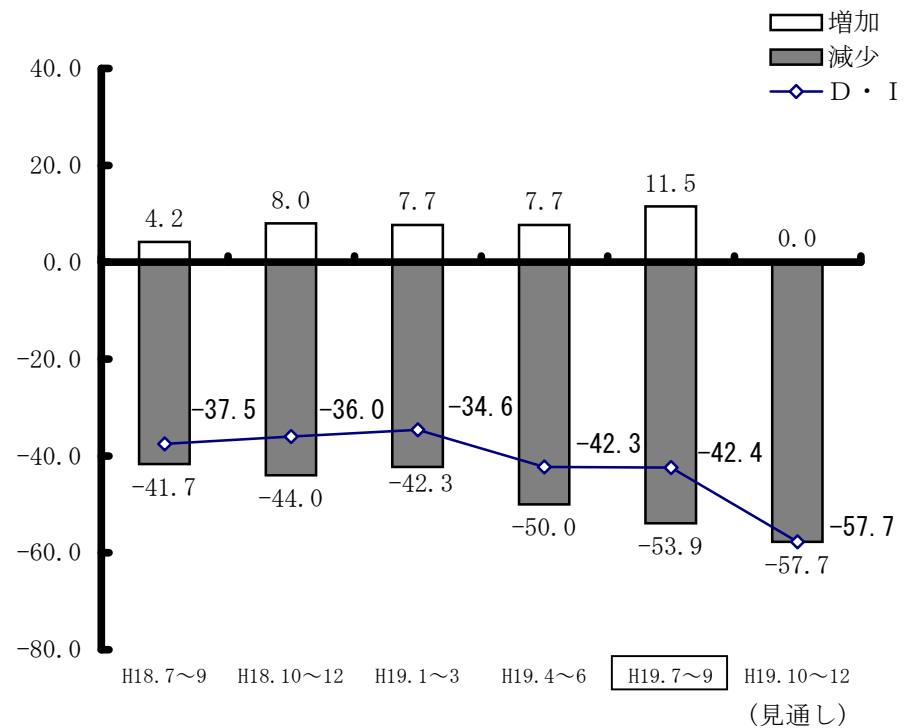


<来期見通し>



建設業の採算D・Iは、0.1ポイントと若干低下したが前期水準並みであった。売上高改善の割には反映されない厳しい状況である。

また、来期の見通しは、15.3ポイント低下見込みで、業界の厳しさが窺われる。

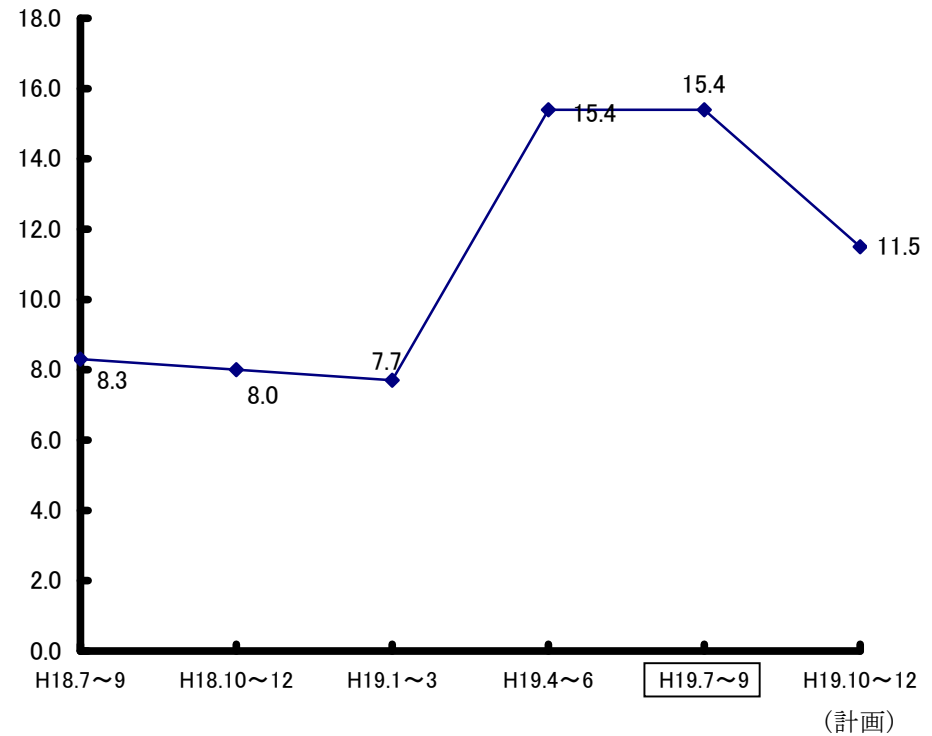


— 前年同期比 —

設備投資

建設業における今期の設備投資実績は、前期と同様水準で推移した。

来期計画は、3.9ポイント下向きとなっているが、昨年同期と比べても3.5ポイント高い水準で推移すると見込んでいる。

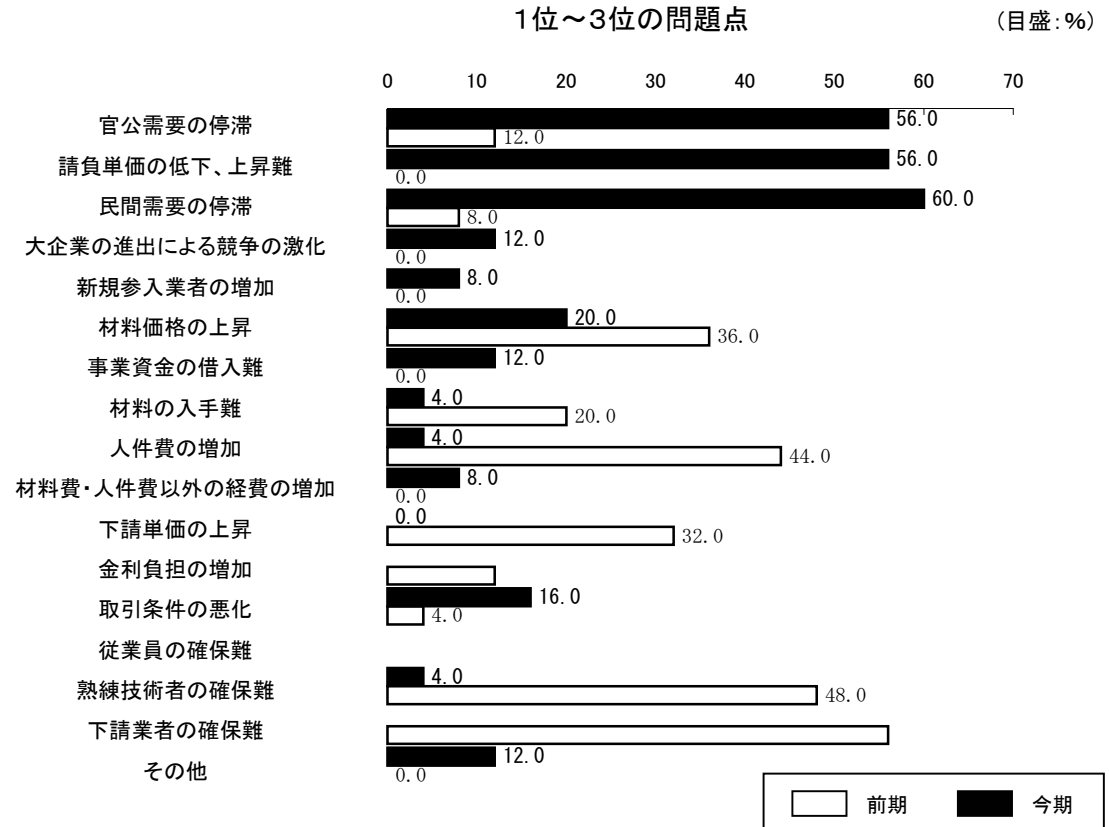
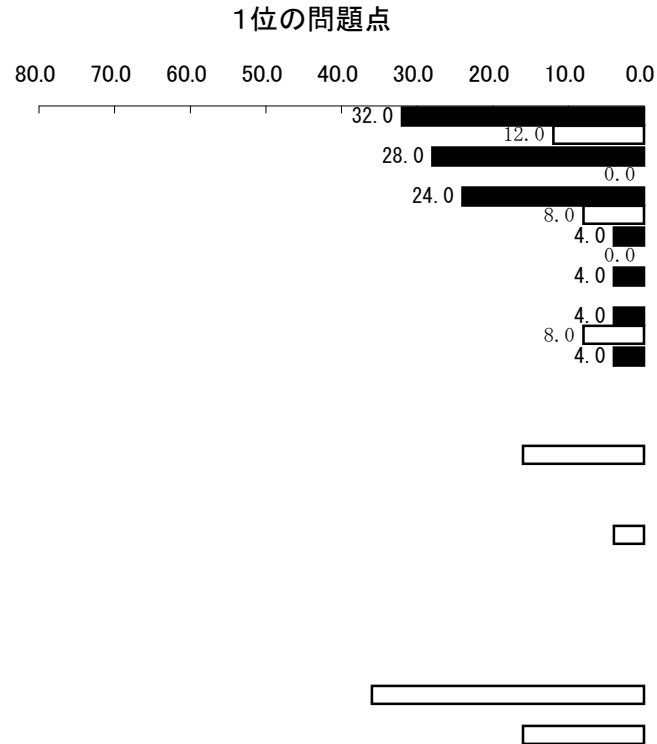


建設業の推移

経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



小売業の推移

— 前年同期比 —

売上高

<今 期>

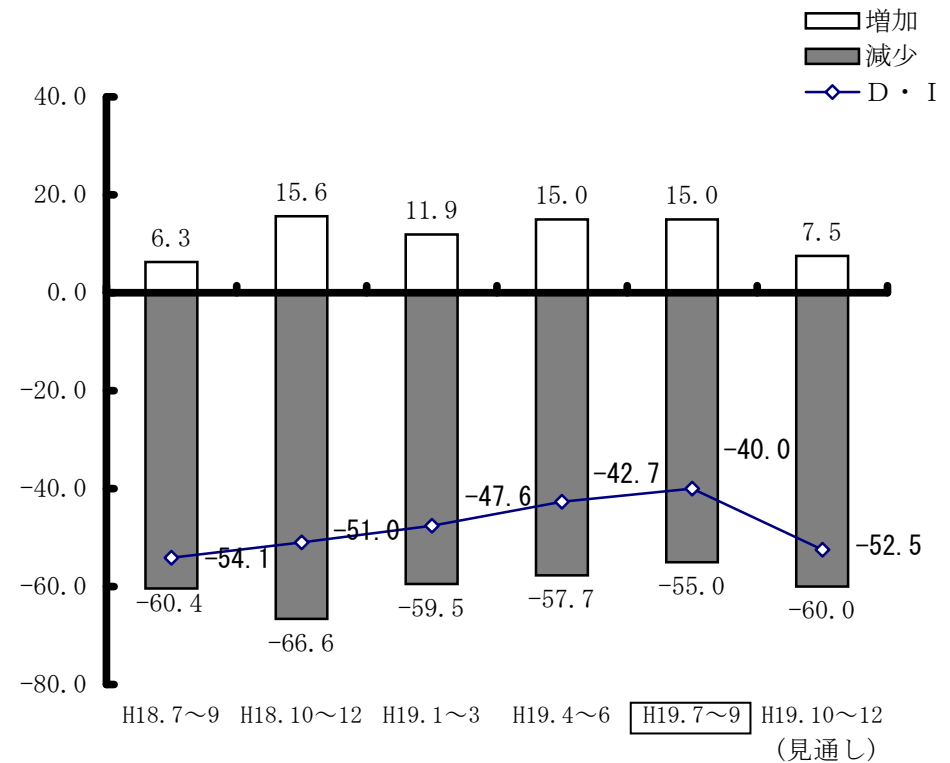


<来期見通し>



小売業の売上高D・Iは2.7ポイント上向きになっが、依然厳しさが窺える。

来期見通しは、12.5ポイント低下の見通しで、依然厳しい状況が見込まれる。



小売業の推移

— 前年同期比 —

採算

<今 期>

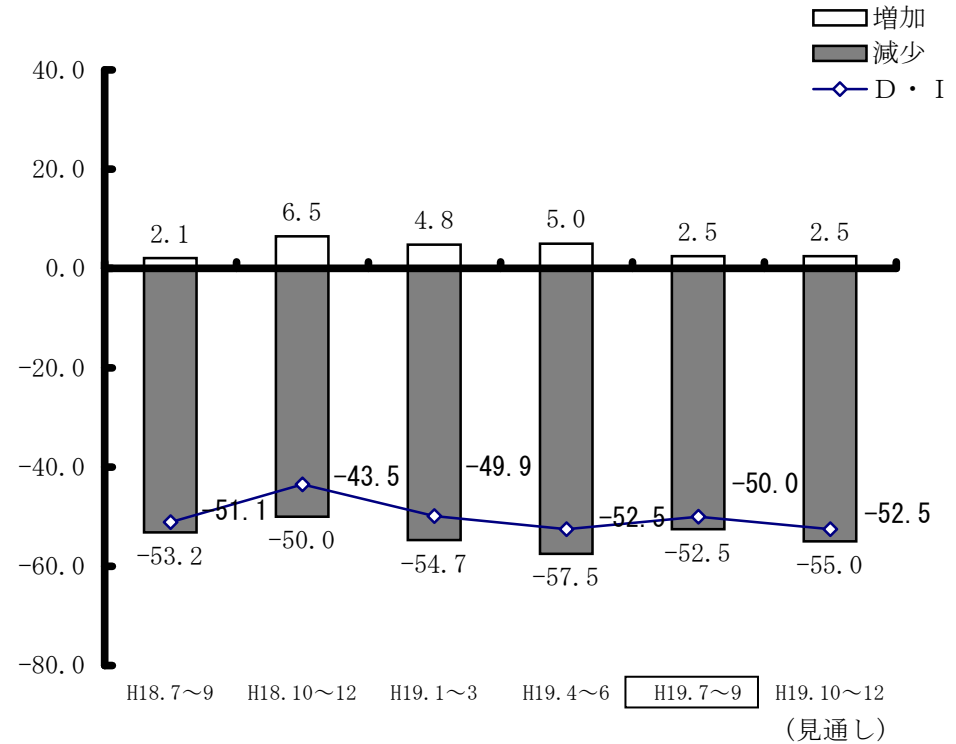


<来期見通し>



小売業の採算D・Iは、売上高と同様に、若干ではあるが改善した。傾向としては、マイナス50ポイントを境にほぼ横ばいで推移している。

来期予想は、2.5ポイント低下と見込まれ、依然厳しい状況が続いている。



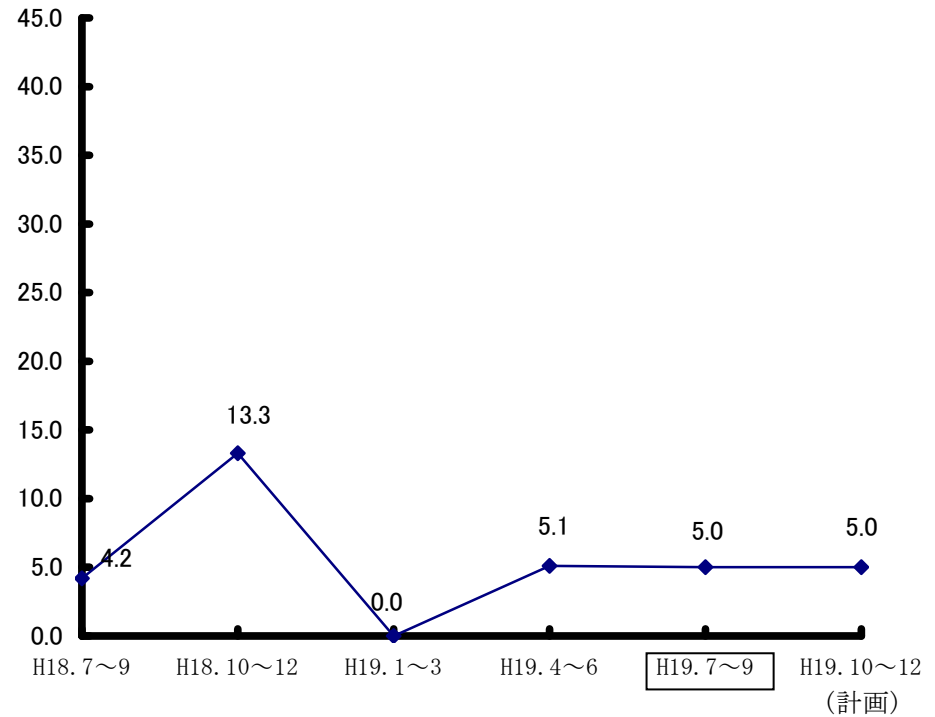
小売業の推移

— 前年同期比 —

設備投資

小売業における今期の設備投資実績は、売上高等と反比例で若干下降した。

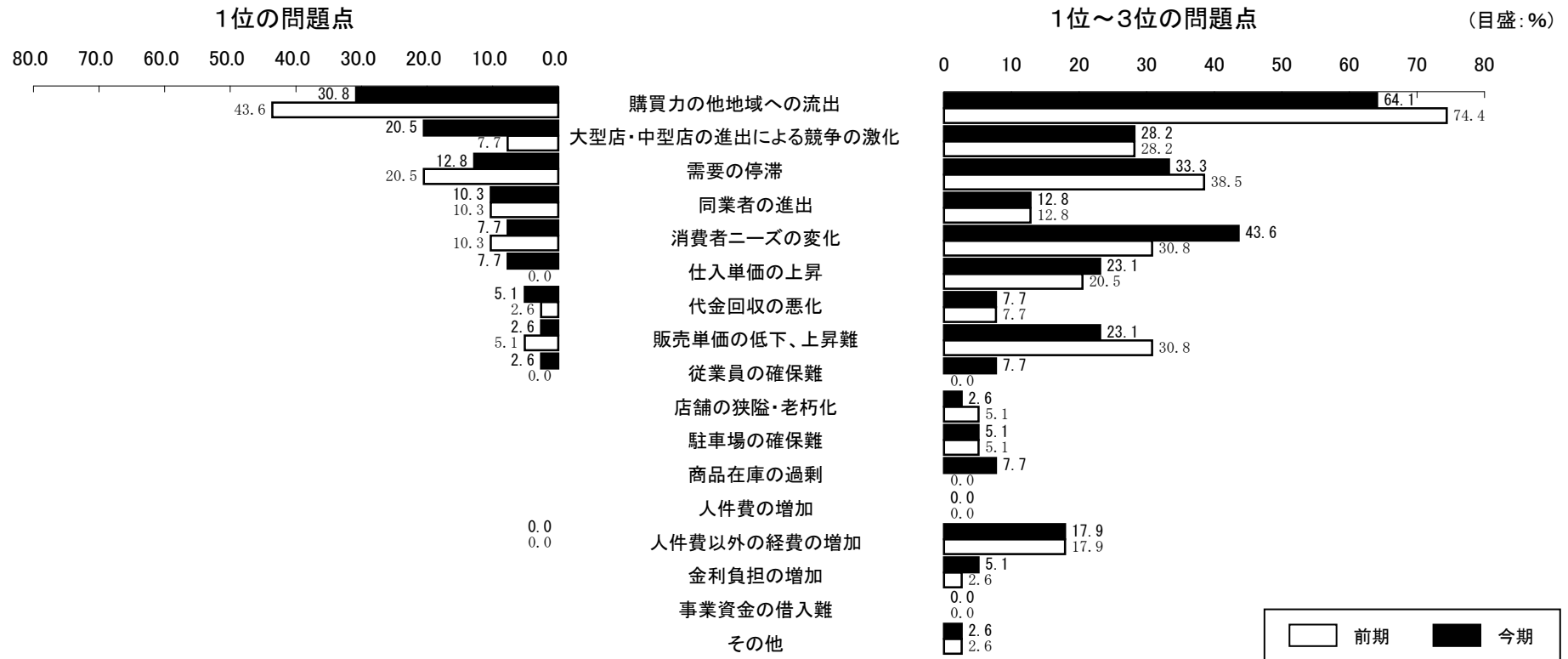
来期の計画については、今期並みの水準が見込まれる。



小売業の推移

経営上の問題点 岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



サービス業の推移

— 前年同期比 —

売上高

<今 期>

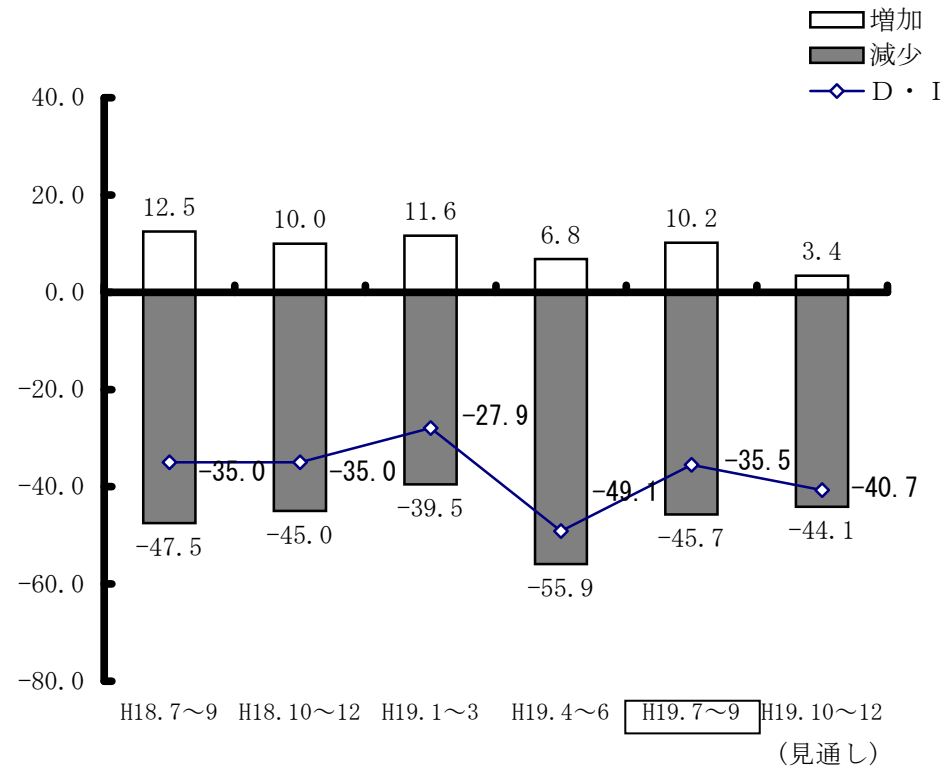


<来期見通し>



今期のサービス業の売上D・Iは、13.6ポイントと大幅に改善した。

来期の見通しについては、5.2ポイント低下となる見通しである。



サービス業の推移

— 前年同期比 —

採算

<今 期>

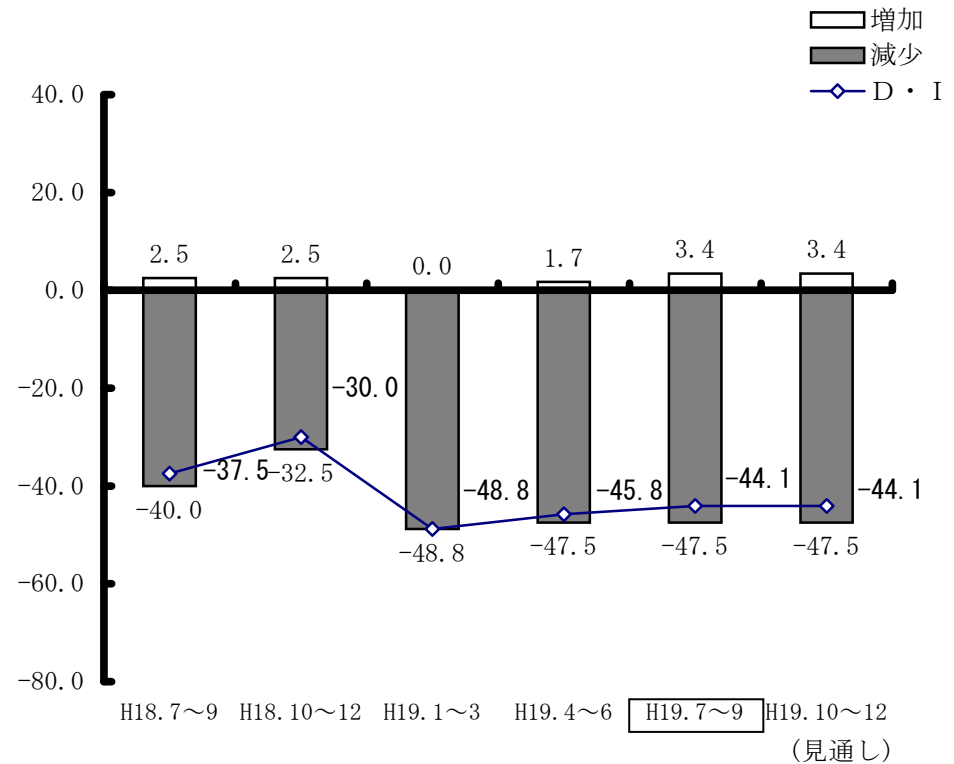


<来期見通し>



サービス業の採算D・Iは、1.7ポイントと若干改善されてはきているが、依然横這いで推移している。

来期の見通しについても、今期同様横這いに推移する見通しとなっている。



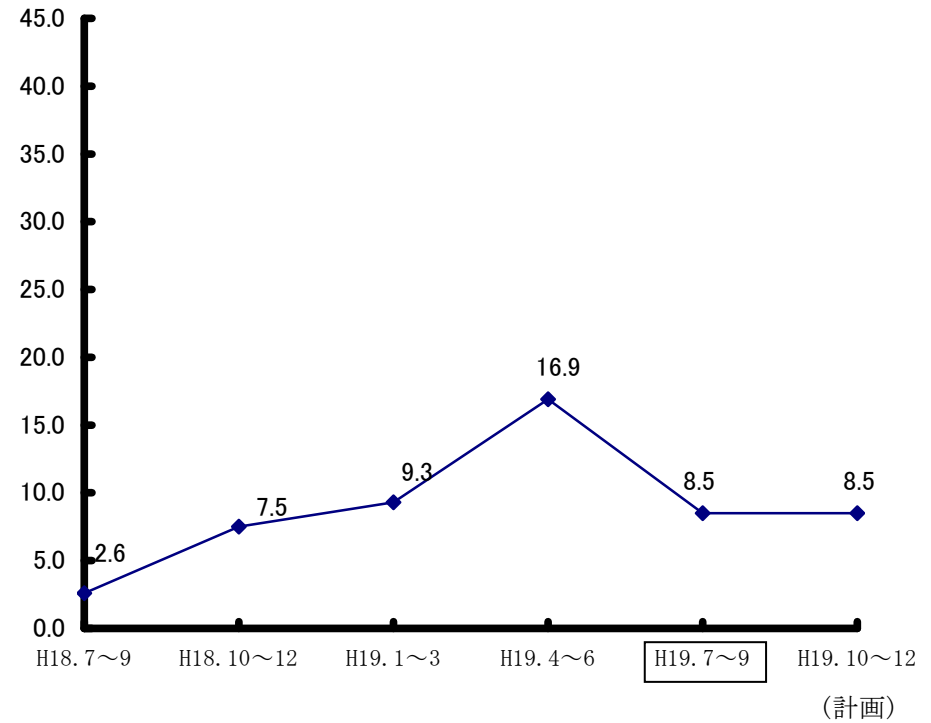
サービス業の推移

— 前年同期比 —

設備投資

サービス業における今期の設備投資は、8.4ポイント下降し、業界の厳しさが反映している。

来期計画は、今期と同様水準で推移する見通しとなっている。

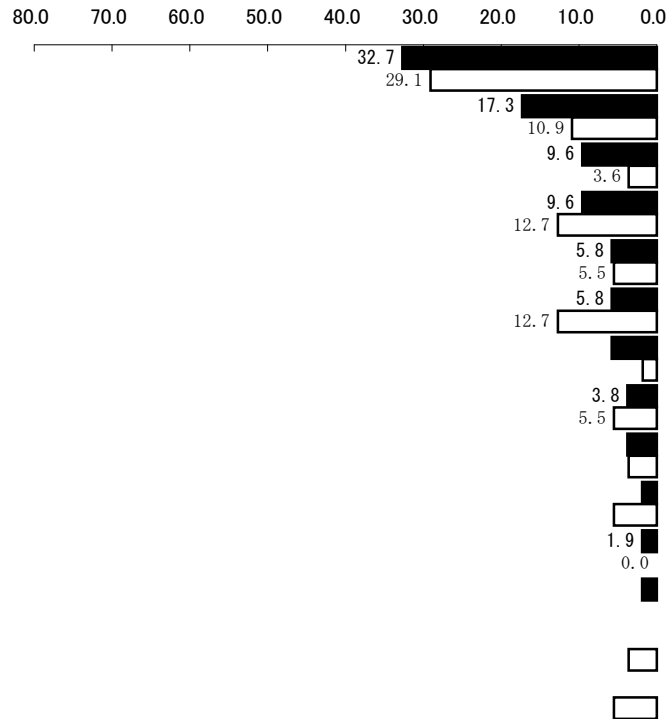


サービス業の推移

経営上の問題点 岩手県 サービス業

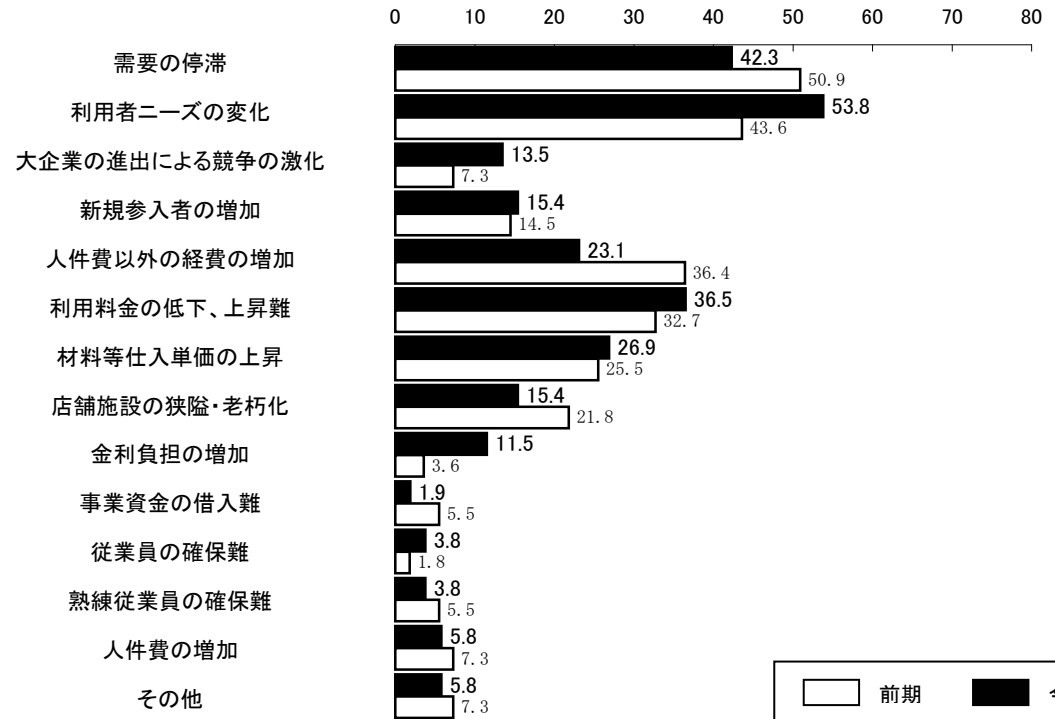
経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

1位の問題点



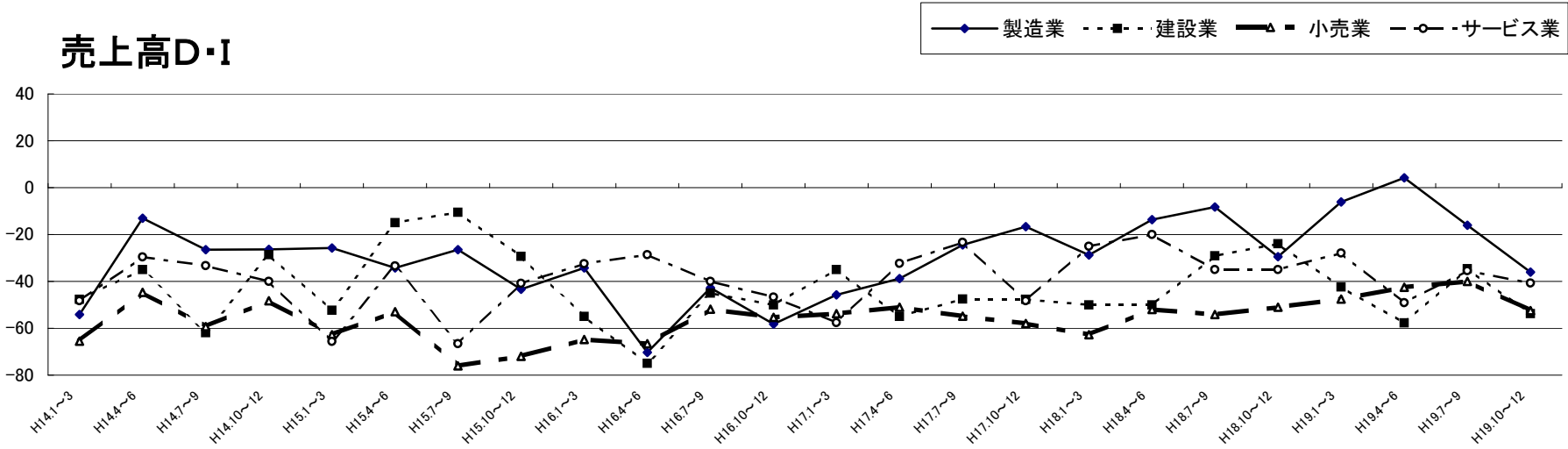
1位~3位の問題点

(目盛: %)

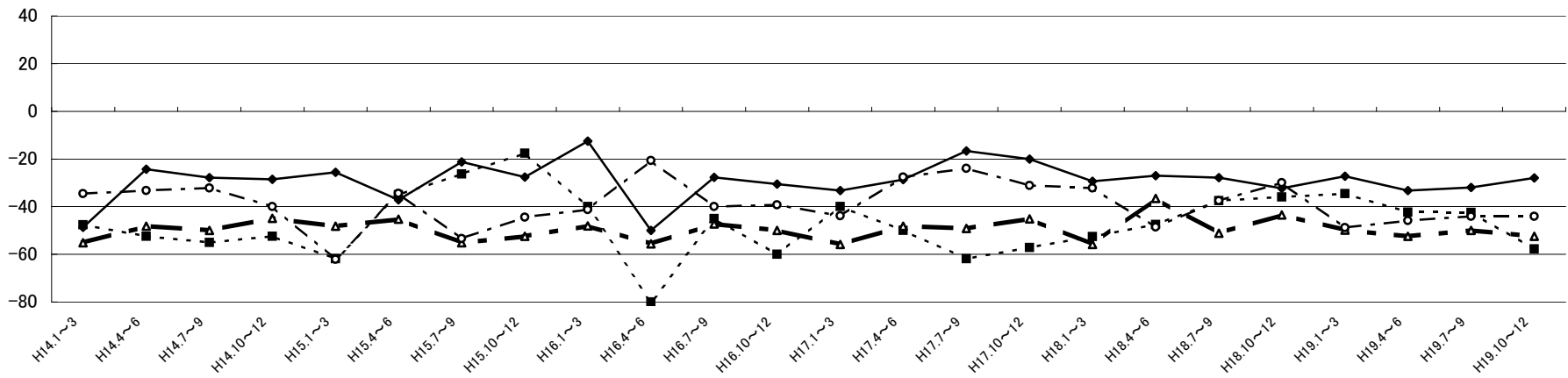


全産業の過去データの推移(平成14年1月以降)

売上高D・I



採算D・I



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 陸前高田、葛巻町、紫波町、大迫、金ヶ崎町、
(商工会名) 衣川、川崎村、大槌、田野畑村、軽米町
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調 査 対 象 期 間 平成19年7月～9月を対象とし、調査時点は平成19年9月5日とした。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行った。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行った。

4. 対象企業等内訳

業種	項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)		27 (18.0)	27 (18.0)	100.0
建 設 業		24 (16.0)	24 (16.0)	100.0
小 売 業		42 (28.0)	42 (28.0)	100.0
サ ー ビ ス 業		57 (38.0)	57 (38.0)	100.0
		150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものである。